

石井信明（第 19 回情報システム学会・研究発表大会 BP 賞選定委員会 委員長）

2023 年 12 月 9 日（土）、第 19 回情報システム学会研究発表大会が、文教大学湘南キャンパスにおいて、「情報システム学が拓く新たな DX 時代」を大会テーマとして開催され、ベストペーパー特別賞・学生奨励賞の 2 賞が選定されました。なお今大会では、ベストペーパー賞の授与は見送られました。

【おめでとう！受賞者の皆様】

- ・ ベストペーパー特別賞

藤本雄紀、日下恭輔、田部田晋（北陸大学）：のと鉄道観光列車を対象とした VR 乗車体験システムにおける印象構造の分析

- ・ 学生奨励賞

三江啓貴（創価大学大学院）：生活支援ロボットのタスク遂行のための雑音環境における話者位置推定を用いた命令文理解システムの開発

【各賞選定のプロセス】

各賞は、次の手順にて選考に至りました。基本的に一昨年と同様の手順です。

手順 1（BP 賞選定委員の選出）：今大会では、委員長を含め 7 名の委員が選出された。

手順 2（論文内容確認）：各委員は、期限までに投稿された論文をダウンロードして内容を確認する。

手順 3（予備評価）：各委員は、合計の持ち点 100 点で各論文の予備評価を行う。

手順 4（各賞選定）：各委員は、予備評価の内容を総合評価し、メール審議により委員全員が思いを共有して、各賞の該当者を決定する。

以上の手順で選ばれたのが、上記の各賞です。

【各賞の特徴と注目される観点】

ベストペーパー特別賞では、情報システム論文としての内容、アイデアの新奇性、完成度、情報社会における有用性などが総合的に判断されます。

藤本雄紀、日下恭輔、田部田晋さんの論文は、「VR と観光を融合させた論文として情報システム学会との親和性が高いこと」、「乗車体験に関する情報提供手段としての VR システムの特性および従来メディアとの位置づけに着目している点がユニークであること」、さらに、「多くの分野で研究の発展が期待出来ること」、などが高く評価されました。発表後の質疑においても、活発な議論が展開されていました。

学生奨励賞は、これからの情報システム学会を担う若手研究者の増加を期待して設けられた賞であり、若手学生の該当者として4つの条件が付されています。それらは、研究発表会当日において、「①大学に在籍中の大学生または大学院生であること（ただし、社会人の学生は除く）、②30歳未満であること、③論文の第一著者でかつ発表者であること、④提出期限までに論文を投稿していること」の全てが満たされていることです。

三江啓貴さんの発表は、「自然言語により命令ができる生活支援ロボットの研究として有用性が高い点」、「研究の発展が期待できる内容である点」、などが評価されました。

【各賞の選定を終えて】

事前にダウンロードした論文による予備評価では、これまでと同様に各委員の意見にばらつきがあり、各賞の選定には困難が予想されました。事前のメール審議において、委員の意見が共有され、各賞の選定方針に従い最終的に各賞をまとめることができました。

選定委員は全ての論文を読み、受賞論文以外の発表にも興味深い話題がたくさんあることを共有しました。ぜひとも、今回発表をされなかった方々を含め、次回大会での研究成果の発表をお願いします。さらに、今回発表された方々は、論文の内容をもう一度見直され、情報システム学会誌に投稿してください。お待ちしております。

なお、ベストペーパー賞をはじめ各賞の審査対象は、提出期限までに提出した論文が対象となります。今回、提出期限後に提出された論文にも、授賞の可能性のある論文がありました。最後に、この点も申し添えます。

以上